

## 学校経営推進費 評価報告書（1年目）

標記について、下記のとおり提出します。

## 1. 事業計画の概要

実施課程名	全日制の課程
取り組む課題	児童生徒の自立支援
評価指標	・本人、保護者からの学校教育自己診断における満足度の向上 ・教員のアンケート調査による指導力・授業力の向上 ・市町教育委員会へのアンケート調査による満足度の向上
計画名	「泉南地域支援教育センター」

## 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	(1) アセスメント力（こどもの発達と障がい理解）、授業力・指導力、特別支援教育と教育施策の最新情勢を理解する力などの専門性をチームとして高める組織づくり。 (2) 支援教育の専門性をリードし、インクルーシブ教育システム構築を実践できる人材の育成を計画的、組織的に実行する。特に、アセスメントと授業力を組み合わせた支援ができる育成体制の構築。 (3) 泉南支援学校、すながわ高等支援学校との連携を図り、地域と支援学校のパートナーシップのもと、泉南地域の支援教育力の向上、さらに総合的な支援体制が整備された泉南地域の創造に向けた取組を推進し、府教育センターと連携して「泉南地域支援教育センター」としての機能を創りあげる。
事業目標	(1) ビデオによる授業の振り返り、ICT機器（iPad等）の活用、アセスメント機器及び教材・教具、関連書籍の導入等により授業力・指導力を向上させる。 (2) 模範授業のDVD化及び教材・教具のデータ化で活用を推進し、授業・教材・研修ライブラリーを構築する。併せて地域支援での研修資料の共有化を進める。 (3) 地域との協働研究（早期教育、支援学級の教育課程づくり、中学校の校内支援体制、人材育成等）を冊子にする。 (4) 上記(1)(2)(3)の取組みの中核として「支援教育センター室」を整備する。
整備した 設備・物品(数量)	・授業・教材・研修ライブラリー構築のためのデジタルビデオ機器（カメラ・BDレコーダー）及びパソコン、大容量ハードディスク、大型TVモニターの導入。アセスメントツール（TTAP, WAVES）の活用 ・支援教育センター室の整備（セキュリティーの設備強化、防音設備、机・椅子・棚等事務用品） 【心理検査関連用品等】・TTAP検査用具及びWAVES（各2個）・足底圧分布測定器フットルック・自立活動用具（平均台1基） 【ICT関連機器】・iPad Air 2（12台）、同保護ケース（12個）、ポケットWi-Fi（3台） ・iPad Air 2 収納カート（1台）・電子黒板4台 【授業記録用関連機器】・デジタルビデオカメラ（3台）、同アクセサリキット（3セット）・HDD16TB ・SDメモリーカード64Gb（9枚）・リモコン付き三脚（3台） 【センター室整備関連】・スチールキャビネット（3個）、折りたたみ式会議用テーブル（11個）、会議用椅子（2脚セット5個） 【特別支援教育関連書籍】・特別支援教育関連書籍
取組みの 主担・実施者	取組みの主担：支援教育センター室 取組みの実施者：全校教職員
本年度の 取組内容	事業目標からの取組 (1) 全初任者の授業を中心に30以上の授業を撮影、その後、映像を研究協議で活用、初任者等の授業力・指導力の向上に繋がった。今回購入のアセスメント機器・教材・教具を自立活動の授業で活用して個別の指導計画の生徒のアセスメントの基礎資料として活用した。情報端末整備後の2学期以降、利用率が1.5倍に上昇、機器活用の校内研修を数回以上の実施、同校外研修への派遣。 (2) 撮影した授業ビデオをDVD化、授業づくりの個人学習や研修資料に活用。これ以外に校内教材教具展等で作成された資料をライブラリー化、校内LANのグループ共有フォルダー内にデータを入れ活用できるようにした。 (3) 進行中である地域との協働研究（支援学級や通常学級での授業と教育課程づくり）の実践を進めおり、3年後に成果物として冊子の作成をめざしている。 (4) 本年度は対象教室が耐震工事で使用できず、机・椅子等の搬入後、会議や研修に使える整備に留まっている。
成果の検証方法 と評価指標	①学校教育自己診断（保護者）による評価：「子どもの学習内容に満足している」（87%）(◎) ②授業研究学習会参加者へのアンケート実施による評価：自己の授業力・指導力向上（75%）(○)
自己評価	①学校教育自己診断（保護者）による評価「子どもの学習内容に満足している」は、目標値87%に対して、結果は93%となり目標値達成となった。授業力向上に向けた授業ビデオの活用は校内での初任者研修等を中心に、自己評価を含め効果が上がっている。「わかりやすい授業」の為にICT活用については、機器購入後の利用率が上がっている。しかし、学校全体としての有効な機器活用スキルについては不十分である。今後、ICT活用力を高める為、活用意義理解とスキルを上げる研修が必要。(◎) ②授業研究学習会参加者へのアンケート実施による評価：授業力が非常に向上した27%、少し向上した73%（下記グラフ） 経験の少ない教員の学びの実感が高まっている。しかし、目標設定の仕方や個に応じた支援方法等については、向上したと評価した割合が少ないことから、わかりやすく、興味・関心を引き出す授業づくりの具体的実践を進めていくことが課題である。(○) 
次年度に向けて	【当初計画の「2年目の取組み内容」の完全実施】 【追加】（授業力向上の取組みの中で、ICT活用力の向上を中心とした以下の取組み） ・いつでも使用できるICT機器の環境整備⇒具体的には、就学奨励費を活用して高等部全生徒に情報端末を購入。 ・多くの教員が活用スキルを向上できる講習・研修の頻繁な実施。教育センターのパッケージ研修の活用。 ・教員が活用できる情報端末の増設及び機器活用率の本年度2倍に。 ・ICT機器活用の核となる教員（高等部3名、小中学部各1名）同活用向上の外部研修や先進校へ派遣、育成。 ・教員による機器活用の実践事例の報告会・研修会の実施。 ・本校の地域支援を担当する教員（教育相談登録者：約40名）による地域との協働研究（授業づくり・教育課程づくり）の成果と課題を報告し、泉南地域全体で共有。 ・泉南地域の支援学校3校における「教材・教具展示会」を地域に公開し、地域の教員との交流・連携を深める。 ・地域の授業力向上を促すため、外部専門家による公開研修の実施とICT活用スキルの伝達講習を実施。

学校番号

S08